

教育機関向け試験費用

試験名称	試験概要	装置スペック	機器使用料	オペレータ料※3 (試験監督料※4)	備考
衛星電波予備試験	・搭載アンテナからの放射パターン形状測定 ・電磁適合性(EMC)試験のうち、エミッション試験	3m法電波暗室 電波吸収体内寸6.0mx5.2mx5.0m	10,000円/日	20,000円/日	消耗品費用(実費)を別途徴収※1 オペレータは九工大のみ
振動試験	ロケット打ち上げの際の振動に耐えられることを検証する	センサーは24chまで 25ch以上は要相談	15,000円/日	30,000円/日 (10,000円/日※4)	消耗品費用(実費)を別途徴収※1 クリーンブース使用の場合※2
衝撃試験	ロケットから切り離す際の際の衝撃に耐えられることを検証する	10cm級、50cm級の衝撃試験	20,000円/日	30,000円/日 (10,000円/日※4)	消耗品費用(実費)を別途徴収※1 クリーンブース使用の場合※2
熱真空試験(大)	軌道上で予測される条件より厳しい温度環境条件下で、衛星が性能を発揮できることを検証する	シュラウド内径1.5m、到達圧力1.0x10 ⁻⁵ Pa、液体窒素シュラウド付き	12,000円/日	30,000円/日 (10,000円/日※4)	消耗品費用(実費)を別途徴収※1 クリーンブース使用の場合※2
熱真空試験(小)	軌道上で予測される条件より厳しい温度環境条件下で、衛星が性能を発揮できることを検証する	試験可能サイズ15cm x 15cm x 30 cm, 到達圧力1.0x10 ⁻⁵ Pa, 液体窒素シュラウド付き	12,000円/日	30,000円/日 (10,000円/日※4)	消耗品費用(実費)を別途徴収※1 クリーンブース使用の場合※2
熱平衡試験(大)	衛星の熱設計の妥当性の確認及び熱数学モデルの検証を行なう	シュラウド内径1.5m、到達圧力1.0x10 ⁻⁵ Pa、液体窒素シュラウド付き	12,000円/日	30,000円/日 (10,000円/日※4)	消耗品費用(実費)を別途徴収※1 クリーンブース使用の場合※2
熱平衡試験(小)	衛星の熱設計の妥当性の確認及び熱数学モデルの検証を行なう	試験可能サイズ15cm x 15cm x 30 cm, 圧力1.0x10 ⁻⁵ Pa, 液体窒素シュラウド付き	12,000円/日	30,000円/日 (10,000円/日※4)	消耗品費用(実費)を別途徴収※1 クリーンブース使用の場合※2
熱サイクル試験(大)	衛星および衛星部品に対して高温と低温に繰り返し曝す事で、供試体の耐久性を検証する試験	−190℃から200℃まで試験可能。温度プロファイルについては任意のプロファイルが設定可能	12,000円/日	10,000円/日 (5,000円/日※4)	消耗品費用(実費)を別途徴収※1
熱サイクル試験(小)	衛星および衛星部品に対して高温と低温に繰り返し曝す事で、供試体の耐久性を検証する試験	−190℃から200℃まで試験可能。温度プロファイルについては任意のプロファイルが設定可能	12,000円/日	10,000円/日 (5,000円/日※4)	消耗品費用(実費)を別途徴収※1
真空中機能試験	衛星に使用する部品、素子等の真空環境下で動作することを検証する	到達圧力5.0x10 ⁻⁵ Pa	5,000円/日	10,000円/日 (5,000円/日※4)	消耗品費用(実費)を別途徴収※1
加圧コンポーネント 圧力試験・リーク試験	圧力容器等が要求通りの耐圧とリークレートをもつことを検証する	試験可能サイズ:15cmx15cmx15cm 真空容器背圧:1Pa	10,000円/日	23,000円/日 (10,000円/日※4)	消耗品費用(実費)を別途徴収※1
アウトガス試験	ASTM E-595に準拠したアウトガス測定を実施する	ASTM E-595に準拠	100,000円/回	300,000円/回	消耗品費用は機器使用料に含む 1回につき6検体まで測定可 オペレータは九工大のみ 測定1回につき1週間
熱光学特性試験	太陽光吸収率および垂直放射率の測定	測定波長範囲 太陽光吸収率:0.25~2.5 μm 垂直放射率:2.5~100 μm	12,000円/データ 1検体につきαを2回、 εを2回測定の場合、 12,000×4=48,000円		消耗品費用及びオペレータ費用は機器使用料に含む イレギュラーなサンプルについては割増→相談要 オペレータは九工大のみ
衛星組立室 (クリーンルーム)	衛星組立室の利用料		4,000円/日		
共同利用研究	各衛星試験設備の共同利用	超小型衛星試験センターの共同利用申請を行い、採択を得た研究に限り、センター保有試験装置を無料で使用出来ることとする。	基本的に無料※5	—	特殊な機材、消耗品等を使用する場合、相談の上、実費請求あり

利用料金は予告なく改訂することがあります。

※1: 消耗品費用とは液体窒素、専用治具の作成、センサー類の追加分等を指します。

※2: クリーンブース使用の場合、クリーンブース使用料で10,000円/回を料金として計上する。(この中にはクリーンブース用作業服のクリーニング費用、各消耗品等を含む)

※3: オペレータ料は、九工大職員に機器の操作を依頼する場合に徴収します。尚、1名当たり1日8時間を基本としています。

※4: 九工大職員がオペレータ技術を教育して技術取得を認めた場合に限り、機器使用料+試験監督料のみで試験を行うことができることとする。(技術取得の費用はオペレータ費用と同等とする。)

※5: 特殊な機材、消耗品等を使用する場合は、予め共同利用申請を行う際に相談を行う事。